

（１１）鬼北ブロック（鬼北町、松野町）

～産地づくり～

「水稻」は、新品種の導入や主食用米の需要に即した生産に努めるとともに、スマート農業を推進し、生産振興を図ります。果樹では、特産の「ゆず」について地域品種の普及を図り、「くり」「もも」については、(株)源吉兆庵への安定供給を実現します。また野菜においては、「きゅうり」の産地復活を後押しし、需要拡大が見込める軽量野菜生産の振興を図るとともに、農地の整備を進め、新たなビジネスや地域特産品の開発についても取り組みます。

～推進品目や産地づくりの方向～

○「水稻」の大規模経営体育成と優良農地集積に向けた環境整備

【取組】

- ① 「ひめの凜」の普及拡大に向け、現地栽培適応性の確認や、栽培講習会等での技術指導により、品質向上対策を実施
- ② 大規模経営体の育成に向け、水管理システムやドローン散布（農薬、資材）、直播栽培等の省力化技術の導入のほか、肥料高騰対策として緑肥（ヘアリーベッチと根粒菌）の実証を実施
- ③
 - ・農村地域の持続的発展に向け、集落のふるさと保全計画の策定支援
 - ・農業用水確保と農村地域の防災・減災のため、ため池の改修や農業用排水路を整備
- ④ 主食用の需要に対応した生産、水田の有効活用を図るため、畜産農家と連携し、飼料米等の新規需要米の作付けを推進

【成果】

- ① 「ひめの凜」栽培面積：9.6ha [R5：7.6ha、R4：5.2ha、R3：3.5ha]
- ② 省力化技術導入に向けた実証試験の実施
(導入農家数：ドローン防除 4戸、新コーティング種子直播 2戸、水管理システム 1戸)
- ③
 - ・ふるさと保全計画の策定（鬼北町：1集落）
 - ・ため池改修：2ヶ所（鬼北町）
 - ・用排水路整備：4路線（鬼北町：2路線、松野町：2路線）
- ④
 - ・飼料用米作付面積：34.2ha
[R5：29.9ha、R4：26.3ha、R3：23.2ha]
 - ・飼料用稲作付面積：10.6ha
[R5：19.2ha、R4：19.3ha、R3：14.9ha]



ドローンによる石膏資材
散布の実施



緑肥の実証



日本農業賞（優秀賞）



視察研修
(物部ゆず生産部会)

○ゆず「鬼北の香里」の産地化と高付加価値型栽培の実践

【取組】

- ① トゲの少ない有望品種「鬼北の香里（きほくのかおり）」の導入推進による、作業性の改善と園地の若返り
- ② 付加価値を高めるため、有機JASに準じた栽培を推進
- ③ ゆず産地の発展経過の再認識と、今後の産地振興方策の検討

【成果】

- ①
 - ・「鬼北の香里」導入本数：2,689本
[R5：2,859本、R4：3,577本、R3：3,931本]
 - ・管内ゆず集荷量：947t
[R5：2,021t、R4：805t、R3：1,458t]
- ② 有機JAS栽培準拠農家：544戸
[R5：614戸、R4：541戸、R3：618戸]
- ③
 - ・鬼北ゆず部会において、日本農業賞へ応募したところ、集団の部で愛媛県代表として全国大会へ出場し、優秀賞を獲得
 - ・高知県香南市物部の物部ゆず生産部会にて、先進地視察研修（内容：担い手確保・育成対策や生食用ゆずの生産販売状況）

○加工用品種の栽培支援と瀬源吉兆庵への安定供給の確立

【取組】

- ① 「くり」では、伐採林地を活用した灌水・鳥獣被害防止設備を備えたくり大規模モデル園を設置し、省力化技術及び早期成園化の実証や、新規栽培者確保を推進
- ② 「加工桃」では、早期（青玉）出荷体制への移行を支援し、収穫ロス削減や安定供給を推進するとともに、有袋・無袋栽培の実用性実証を実施
- ③ 改植障害対策として、土壌改良剤の実証継続および耐性台木の実証開始

【成果】

- ① 収穫ネットによる作業時間の省力化：約40%減
- ②
 - ・早期出荷量は、カメムシの多発により目標の8割に減収
 - ・無袋実証では収穫果実の色付きにより加工後の製品に影響が認められたため、収穫時の着色別貯蔵試験を来季予定
- ③ 土壌改良剤の効果継続を確認（障害発生株なし）



改植障害対策（土壌消毒+土壌改良資材）の実証



キウイ花粉増産に向けた剪定講習会の実施

○キウイフルーツ花粉ビジネスの定着支援

【取組】

- ① 産地規模拡大に向けた、低コスト省力栽培技術の実証
- ② 核となる農家の栽培技術の向上を図り、早期成園化を推進
- ③ 花粉の採取精製・検査体制の支援
- ④ 町との連携による、新規栽培農家の掘り起こし

【成果】

- ①
 - ・早期成園化により樹冠拡大達成
 - ・花粉生産量：2.05kg（R5：1.92kg、R4：0.22kg）
- ② 収穫適期目合わせ会や各種講習会、個別巡回を通じて、栽培技術が向上
- ③ 関係機関と連携のうえ、花粉出荷のための検査体制を構築
- ④ 新規栽培者勧誘パンフレットを作成し、新規栽培者を1人確保



農業の担い手確保・育成に係る研修枠組みの検討会

○野菜産地の復活に向けた担い手育成と研修体制の再構築

【取組】

- ① きゅうり栽培等の先進技術の習得や、農地・ハウスの生産基盤確保等による円滑な就農を目指した研修施設と支援体制の構築
- ② スマート農業技術を導入した栽培環境や、作業データの分析と活用、リアルタイム栄養診断による生育状態の可視化など、データ駆動型農業の実践による、高い生産性と収益性の実現

【成果】

- ①
 - ・研修計画のオプションメニューを検討中
 - ・研修生3人が円滑な経営開始に向け、基本技術等を習得中
- ② 環境モニター装置による、適正作動確認を併用した廉価な側窓開閉装置の運用実験により、実用レベルを確認



都市部の消費者に松野町産南高梅の特徴をPR

○地域の優れた特産品の育成

【取組】

- ①
 - ・うめの収量安定のため、収量減に繋がった原因解析
 - ・梅干しのPRと、加工品協議支援
- ②
 - ・「鬼北熟成雉」において、新規生産者の掘り起こし
 - ・高知県のきじ生産者組織（梶原町・いの町）との連携

【成果】

- ①
 - ・秋肥施用の徹底で、冬季の健全な花器の成長を確認
 - ・松山市内の消費者（40人）に、松野町産梅の特徴を紹介
 - ・梅加工副産物の利用拡大のため、県内業者と協議を開始
- ②
 - ・新規生産候補者を1人確保（地域おこし協力隊、R7.4月就農予定）
 - ・ゆずはらグルメまつりへ参加し、連携を強化（R6.10月）



新規生産候補者によるきじの飼育

～地域づくり～

「水稻」では、規模拡大に伴う省力化技術の普及を図り、経営多角化や集落営農の組織化により、中山間地における「水稻」を中心とした農業経営の安定と地域農業の維持発展を目指します。また、農業支援センター等と連携し、認定農業者や女性等による6次産業化やグリーン・ツーリズムなど、多様な担い手が活躍できる地域づくりを推進します。また、荒廃農地拡大の最大要因となっている鳥獣被害対策に取り組むとともに、獣肉資源の有効活用に努めます。豊かな自然や豊富な食材等の地域資源を活用して都市との交流を促進します。

～推進対象や地域づくりの方向～

○大規模経営体の育成と競争力のある農業経営支援

【取組】

- ① 各町及び農業公社と連携し、水田地帯での農地集積による荒廃農地対策を推進
- ② 優良経営体の法人化を進めるため、各種補助事業や新技術導入等を図り、地域計画に位置づけられた担い手を、競争力の高い経営体に育成
- ③ 多面的機能を有する農地等の地域資源を適切に保全管理するため、地域ぐるみで取り組む共同活動を支援
- ④ 鳥獣被害の軽減を図るため、侵入防止柵設置や捕獲、処理加工施設による獣肉の有効活用を推進

【成果】

- ① 管内荒廃農地面積：30.4ha（鬼北町：18.3ha、松野町：12.1ha）
※ 基準年（R2年）：34.8ha
- ② 規模拡大に向けた省力技術の導入、経営の多角化（1経営体）
- ③

	多面的機能支払	中山間地域等直接支払
鬼北町	18組織(370ha)	22組織(143ha)
松野町	14組織(186ha)	20組織(183ha)
- ④
 - ・ 侵入防止柵の設置：5,655m
 - ・ 鬼北町：「(株)ありがとうサービス」がジビエペットフード『GIBIEVERY』シリーズの販売を開始（7/20～）
 - ・ 松野町：「NPO法人 森の息吹」がペットフードブランド『FOR DOGS』の商品ラインナップを拡充



地域計画
（策定に係る集落説明会）



規模拡大への省力技術導入
（自動給水システム）



スマート農業実証
（果におけるドローン防除）

○多様な担い手の育成（就農支援・集落営農組織体制整備）

【取組】

- ①
 - ・ 認定農業者や農地所有適格法人の育成
 - ・ 高齢化と兼業化に対応した就農支援や、営農体制整備を推進
- ② 地域おこし協力隊や、I・Uターン就農の促進を図るため、組織間の連携や就農しやすい環境整備を推進
- ③ スマート農業や高付加価値型農業経営の推進
- ④ 学校と連携した、食農教育活動による次世代を担う人材の育成
- ⑤ 首都圏での就農相談活動

【成果】

- ① 重点対象選定による新規就農者支援：2人、集落営農：1集落
- ②
 - ・ 新規就農者：2人（鬼北町、松野町で各1人）
 - ・ 研修生受入：3人（9月～：1人、10月～：1人、1月～：1人）
 - ・ 担い手確保育成検討会を通じて、情報の共有化（年3回）
- ③ 実証試験や各種講習会等を通じて、栽培技術が向上
- ④ 食農教育・農業体験学習活動支援：小学校 3回、中学校 1回、高校 1回（農林水産人出前授業）
- ⑤ 農業・移住相談（東京・大阪）に対応：松野町15回、鬼北町7回

○都市との交流促進（地域資源活用）

【取組】

- ・ 直売所等交流拠点を核とした「鬼のまち」「森の国」ブランドを育てると共に、拠点の整備・拡充や農林漁家民宿の開業支援
- ・ 農業の振興と都市住民との交流による地域活性化を推進
- ・ 他県の修学旅行生受入れに向けた研修を行い、体制整備を支援

【成果】

- ・ 修学旅行受入：3校（7月に1校、10月に2校）



修学旅行生の受入